

はじめに

(ナレーション)

本動画は令和4年3月、埼玉県教育委員会から発行された運動好きな児童生徒育成のためのリーフレットを参考に、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を進めるため、単元や題材などの内容や時間のまとまりをどのように構成するかというデザインを考えるための研修用動画資料です。

単元を計画する前に確認しておくこととしては、3つあります1つ目は運動の特性や魅力の確認、2つ目は児童生徒の実態把握の確認、3つ目は目指すゴール像の設定です。

目指すゴール像の設定は、本単元を通じて育てたい具体的な姿を学習指導要領解説 体育・保健体育編から資質・能力の3つの柱に基づいて検討しています。

本編動画はリーフレットを基に、小学校編は単元計画の初めから中盤、終盤までの授業の様子がダイジェストで記録されています。中学校編では、主に単元の中盤での思考力、判断力、表現力等をねらいとした授業の様子が。高等学校編では、主に単元の終盤での学びに向かう力、人間性等をねらいとした授業の様子がそれぞれ記録されています。

小学校編

単元はじめ

(先生)

跳び箱運動に挑戦したいと思います。3年生の時もやりました。どんな技をやりましたか。

(児童)

台上前転です。

(ナレーション)

今までの学習を想起して、新たな学習へのつながりを持つことで、新たな学習への意欲付けを行うことも大切です。

(先生)

今日から行っていく運動の動き方をみんなで確認していきたいと思います。2つの技がありますので、どんなところでどういうふうにやったらできるのかななどを、この後聞いていきたいと思いますので、よく見てください。

【動画の視聴】

(先生)

これは何という技ですか？

(児童)

首はね跳びです。

(先生)

または、頭がついている場合は、頭はね跳びといいます。では、今、動画で流しましたが、スライドにしてみます。

(ナレーション)

図や動画を提示して、視覚的に分かりやすく、具体的に運動のポイントを抑えると効果的です。

(先生)

じゃ、実際にこれから跳び箱運動をやっていきますが、どんなふうにやっていけば、最終的にできるようになりますか。

(児童)

試して、やってみて、課題を見付けます。そして、見付けたら動きます。

(先生)

そうですね。そして、その後はどうしていきますか。

(児童)

課題を解決できるように練習します。

(先生)

なるほど、練習して、課題の解決をしていきたい。つまり、試行錯誤をして練習する時間が必要ですね。これを繰り返していくと、最終的にはできるようになるのですね。

(ナレーション)

先生は、子供たちからの意見や考えを引き出しながら、主体的に学習の見通しを持たせるとよいでしょう。

(ナレーション)

子供たちが怪我なく、安全・安心に運動に取り組めるように、安全面の指導は丁寧に確実に行いましょう。

(先生)

では、この後、試しの運動をやります。久々にやるので、自分がどれぐらいできるかなっていうのを試してください。

(ナレーション)

できそうな技から経験して、技のポイントや感覚に十分触れられる時間を持つことで、今後の学習への期待感がもてるようにしましょう。

試しの運動で得たことを基に、技のポイントについて、子供たちから引き出し、学級全

体で共有することで、今後の学びがいかせるようにしましょう。

単元中盤

(先生)

背中というように、順番についているね。頭がついたよ。背中がついたよ。そして、足が着いたよ。このように順番に跳び箱についているということが大切です。

腰がこうやって反るといいよ。というところもよく見ることができるとよいです。

(ナレーション)

技のポイントを学び、台上前転を行うように回転し、背中が跳び箱についたら腕と腰を伸ばして体を反らせながらはね起きる首はね跳びを、何度も練習してみます。

(先生)

どういうふうに、その自分の課題を見つけて、どんなふうにその課題を解決していけばよいのか、そういったことを考えていければよいのかなと思います。では、まず初めに自分の課題はなんだ。見付けるために こんなことをすれば、青の10番さんのように、自分の課題はこれだって言えるようになると思いますか。

(児童)

自分で撮った動画を見て、実際に確認するとか、他の人に見てもらいます。

(ナレーション)

ICT 機器を効果的に活用して、自己や友達の花を確かめると効果的です。

(ナレーション)

先生は、個々の課題に即した言葉かけや適切な補助を行い、少しずつ伸びを実感させながら、指導や助言をしていきましょう。

(ナレーション)

子供たちが個々の課題に応じて、主体的に学習に取り組み、課題の解決に向けて考えたことを伝え合えるように、場の設定や教具の工夫をしましょう。

(先生)

この場所だったら、倒立の状態から反るといふことができるようになる場ですね。では、実際にできている友達がいましたので、倒立の状態から反るといふところが見える位置に移動してみましょう。

(ナレーション)

どこの場所で何を見せたいのかによって、児童の見る位置を配慮することが必要です。

(先生)

もう1回だけやってみよう。

(先生)

素晴らしいです。よくできましたね。(拍手がおこる)

(ナレーション)

友達の良い点や伸びを全体の場で演示する場面を設け、賞賛し合い、価値付けることで学級全体へ学びを広げていきます。

単元終盤

(先生)

それではいよいよね、今日は最後の発表会をしたいと思います。見る方も、緊張感を持って、しっかり応援する気持ちを見てあげてください。いきますよ、スタート。

(先生)

オッケーオッケー！すごいね、できるようになったね。素晴らしい。

(ナレーション)

個々の伸びや成長が実感できるように、単元後半では、技の発表会の時間を設けて、互いに賞賛し合いながら、充実感や成就感を味わえるようにするとよいでしょう。

(先生)

全部の授業が終わって、最後の振り返りがとっても大事です。振り返りをしてほしいと思います。今までも1時間ごとには振り返っていました。今日は最後なので、1番最初の時から思い返して、振り返りをしてほしいなと思います。今日最後の1枚。特別な学習カードを用意してきました。項目を分けてあります。分かったことやできたこと。いろいろあると思います。細かいことでも構いません。それが1つ。2つ目は一生懸命考えたことです。それも成果だと思います。そして、できるようになった、考えたこと以外にもありますね。例えば、友達と協力できたよとか、こんなふうによかったよとか。そういうのもあると思うので、まずそれを3つ分けたので、皆さんで考えて書いてほしいと思います。

(先生)

何名かに発表してほしいと思います。

(児童)

綺麗に回ることが最初はできなかったけど、最後はできるようになりました。

(児童)

友達に見てもらおうことで、できるようになるということが分かりました。

(先生)

素晴らしいですね。

(ナレーション)

単元の終末では、単元全体を通して、3つの資質・能力の観点を改めて価値付け、今後の学習や生活にいかせるような振り返りができるといいですね。

(先生)

他にもたくさんあると思うんですが。跳び箱運動は、なかなか日常ではない動きですね。それを一生懸命やるとできなかったことも、よく考えるとできるようになりました。そして、さらに友達とも仲良く運動できたっていうことをしっかり学べたかなと思います。とってもよく頑張りました。素晴らしいです。みんなに拍手。

中学校編

単元中盤

(先生)

作戦はゲームで有効に発揮できていますか。ゲームやったけど、その作戦本当に活用できているのということをぜひ考えてください。みんなが関わって相手より多く得点するにはどうすればよいかということをやってきた。前半ではいろいろパスを使いながら大きく見せていこうということをやって、今何をやってるかということ、チームの作戦考えました。昨日はチーム練習しました。今日は成果を出してね。こういう話し合いの中で具体的かつ確かな意見、自分の考えを述べて、ぜひよい話し合いの中でよい練習をしていきましょう。今日の流れは、この話し合いやる。チーム練習やります。ここで初めて今日ゲームで、昨日と同じ相手とやります。話し合いの質を上げて、ここのゲームがどう変わっていったか。そしてまた、話し合い、そしてチーム練習、最後にゲームをやります。ここで、成果出していこうね。明日から、リーグ戦、総当たり戦します。そのために、今日改善できるできるところは改善して意見を述べていきましょう。オッケーかな。

(ナレーション)

思考力、判断力、表現力等、資質・能力の育成のために作戦を考える、作戦を試す、発揮して成果を出すなどのように単元を通して、本時が今どの段階の学習なのかを確認できるようにするとともに、話し合いに視点を当てた本時の流れも明確にすると効果的です。

(生徒)

昨日はこんな感じでした。これを見る限り、1回戦ではコートを広く使っていた。これは、A君がロングパスを多く出してくれていたためだったと思う。

でも、半分のコートは使っていないから、昨日は結構ぎりぎりの戦いでした。

(生徒)

1試合目で戦う人は、もっと前でプレスかけて行うといいと思うよ。2試合目の人は、ルーズボールの確保が必要だと思うよ。

(生徒)

Bさんのよい動きを参考に動いてみるといいかなと思っています。

(生徒)

サッカーは、相手にボールを奪われないようにすることが必要だと思うので、鳥かごの練習はもっとやったほうがいいと思いました。実際の試合にいかせると思うし、続けてその練習はやったほうがいいと思います。

(生徒)

さっきの得点パターンは、例えば、C君がD君にけて、その裏でEさんが動いてD君からのパスをEさんが受けてシュートになったの。これは、相手が惑わされる動きだと思ったの。最初、C君が思いっきり蹴ると思うんだよね。でも、D君が1回ボールに関わりに行くということで、2対1の状況を生むことができるよね。でも実際はEさんがシュートへもっていくんだけど。

(生徒)

パスした後も、C君はカバーできるし。しかも、パス後にその方向にC君が走ることによって、もっといろいろな攻撃が生まれてくるんじゃないかなって思うよ。

(生徒)

ルーズボールをもっと積極的にとりにいったほうがいいと思いました。

(生徒)

最後は、もっとディフェンス、がつがついったほうがいいよ。

(ナレーション)

全体で学習の振り返りができる場面を設け、自己や仲間と思考、判断してきた内容を他者へ伝わるように表現することができるようにするとよいでしょう。

(先生)

いつも結構コートを広く使ってやっているわけなんだけど、ルーズボールのところの課題が映像で分かってきたので、そこをやった後の攻撃がね。どうなるかっていうところがまた、さらな課題になるのかなと思います。

高等学校編

単元終盤

(ナレーション)

学習指導要領では、体力や技能の程度、性別や障害の有無などにかかわらず、運動の多様な楽しみ方を社会で実践することができるよう、留意することとされています。このことは、生涯にわたって、豊かなスポーツライフを実践する資質・能力の育成に向けては、運動やスポーツの多様な関わり方を状況に応じて選択し、卒業後も継続して実践していくうえで重要なことです。

(生徒)

チャンスを敵にまわしてしまったことが多かった。

(生徒)

なんか冷静なことが大事だから、あそこでフェイントかけるとかすればよかった。でも、敵がすごく速い。動きが。

(生徒)

あと、これ大事。投げるの誰がいいのか、誰に投げればいいのかが分からない。油断しているとミスしちゃう。

(生徒)

バウンドさせてパスするとかはどうかな。确实だよな。

(ナレーション)

ゲームを振り返りながら、男女で意見を交わすことはより多様な考えに触れ、互いの信頼関係を深め、自己形成へとつなげていくことができます。

(生徒)

前半は守りを固めて、後半にかけてどんどん攻めていこう。

(ナレーション)

性差を超えて、互いに関わることで、スポーツにより参加しやすい環境を作り出し、スポーツを通じた共生社会の実現につなげていくことができます。

(ナレーション)

単元最後のゲームでは、体力や技能の程度、性別や障害の有無などを超えて、みんなでゲームを楽しみ、自己やチームの成長を全員で実感し、共有し、次の新たな学習へとつなげていきます。

終わりに

(ナレーション)

児童生徒の実態として、体育の授業以外に体を動かす機会が減っている今だからこそ、みんなに平等に与えられた体育、保健体育の授業で運動することに喜びを感じ、運動することの魅力伝え、運動が好きな児童生徒を育成していくことが大切です。体育、保健体育の授業づくりにおいては、運動好きな児童生徒育成のためのリーフレットと本動画資料を参考にしながら、運動好きな児童生徒の育成を図るための魅力的な単元計画作成資料としてご活用ください。

好きこそものの上手なれ。物事はまず好きであってこそ、主体的に取り組み上達していくものです。

共に、埼玉県運動好きな児童生徒の育成に向けて取り組んでまいりましょう。